# 令和元年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果 (概要)

#### 調査の概要

- 1. 調査目的:福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備、長期避難者の生活拠点の具体化等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
- 2. 調査主体:復興庁、福島県、各市町村が共同で実施
- 3. 実施町村: 双葉町、大熊町、富岡町、浪江町、葛尾村、南相馬市、川俣町の 7 市町村
- 4. 実施時期:令和元年8月26日~令和元年12月16日
- 5. 調査方法:郵送法(郵送配布・郵送回収)調査対象は各世帯の代表者
- 6. 主な調査項目:現在の居住状況、帰還に関する意向、帰還の判断に必要な情報 など
- 7. 回答者の属性(年齢)



# 調査設計

●調査対象となった各市町村の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町村	対象地域	記名・無記名	対象 世帯数	回答 世帯数	有効 回収率	調査実施期間
1	双葉町	全域	無記名	3,057	1,402	45.9%	令和元年 9月25日~10月8日
2	大熊町	全域	記名	5,199	2,170	41.7%	令和元年 10月 28日~11月 11日
3	富岡町	全域	無記名	6,612	2,932	44.3%	令和元年 8月26日~9月9日
4	浪江町	全域	記名	7,471	3,546	47.5%	令和元年 10月 15日~10月 29日
5	葛尾村	全域	記名	510	292	57.3%	令和元年 10月 15日~10月 29日
6	南相馬市	小高区 原町区の一部	無記名	4,058	2,463	60.7%	令和元年 9月30日~10月14日 令和元年12月2日~12月16日
7	川俣町	山木屋地区	記名	518	249	48.1%	令和元年 11 月 5日~11 月 19日
				27,425	13,054	47.6%	

●調査対象の考え方 : 上記「対象地域」の世帯の代表者

(分散避難している場合はそれぞれの代表者)

#### ●調査結果の見方

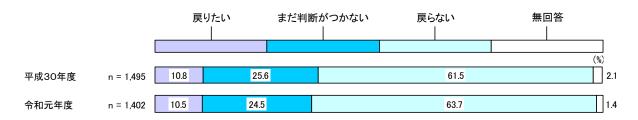
- •「n」とは、質問に対する回答者数であり、100%が何世帯の回答に相当するかを示すものである。
- ・回答の構成比は百分率をあらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- 図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略している場合がある。
- 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。

# 帰還意向

#### 帰還意向

- 〇大熊町、富岡町、浪江町、葛尾村、南相馬市、川俣町では、「戻っている」と 回答した方の割合が増加している。
- 〇令和元年度の調査結果によると、双葉町、大熊町、富岡町、浪江町では「戻らない」と回答した方の割合が5~6割となっている。

#### <双葉町>



#### <大熊町>

※平成31年4月10日に避難指示の一部解除



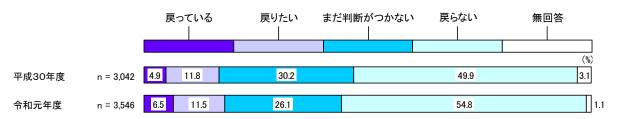
#### <富岡町>

※平成29年4月1日に避難指示の一部解除



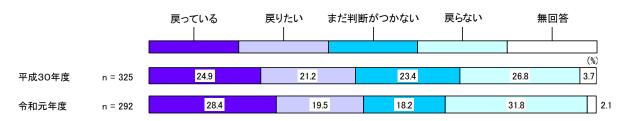
#### < 浪江町>

※平成29年3月31日に避難指示の一部解除



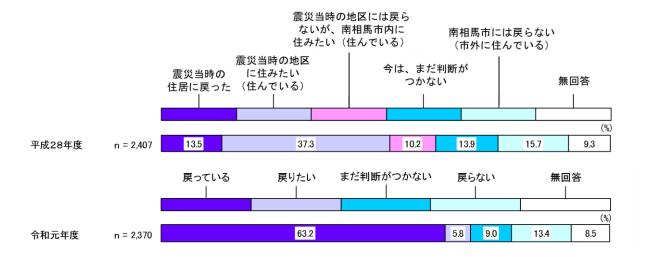
#### <葛尾村>

※平成28年6月12日に避難指示の一部解除



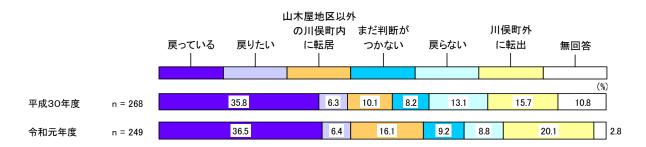
#### <南相馬市>

※平成28年7月12日に避難指示の一部解除



#### <川俣町>

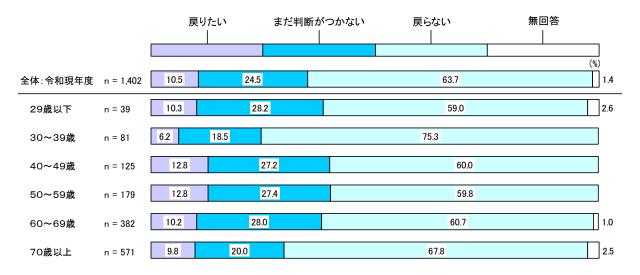
※平成29年3月31日に避難指示解除



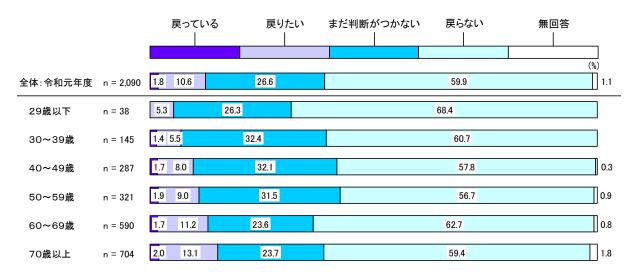
#### 世代別帰還意向

〇帰還の意向について、世代別にみると、概ね回答者の世代が高いと「戻っている」及び「戻りたい」と回答した方の割合が高くなっている。

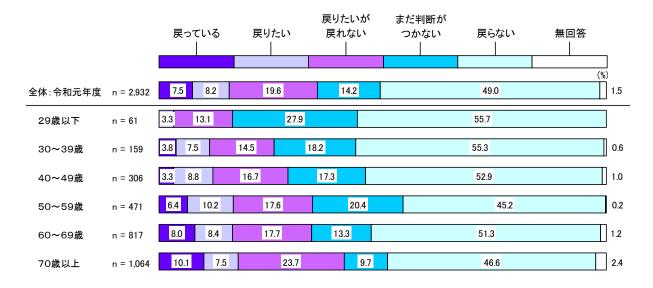
#### <双葉町>



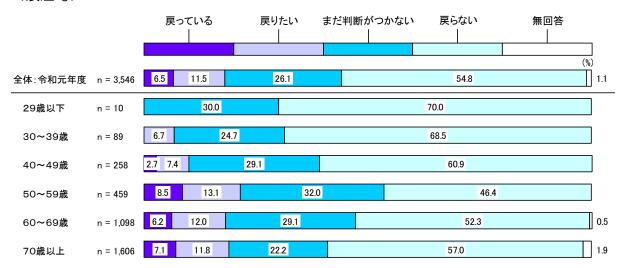
#### <大熊町>



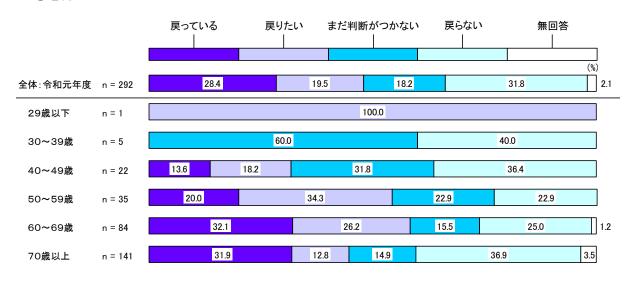
#### <富岡町>



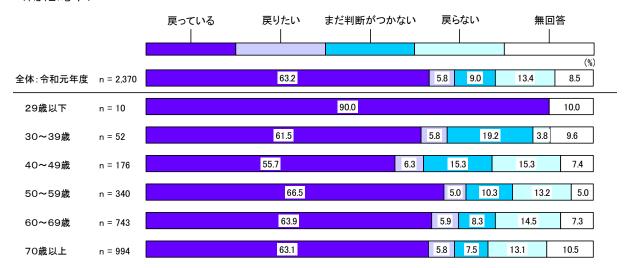
#### < 浪江町>



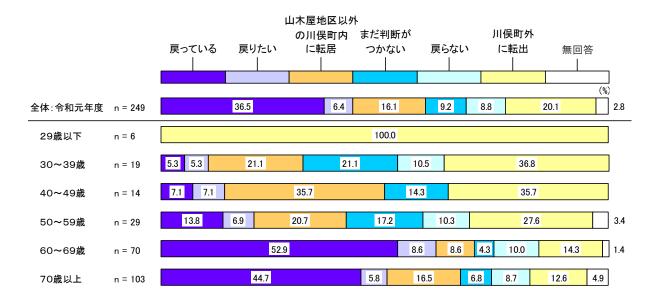
#### <葛尾村>



#### <南相馬市>



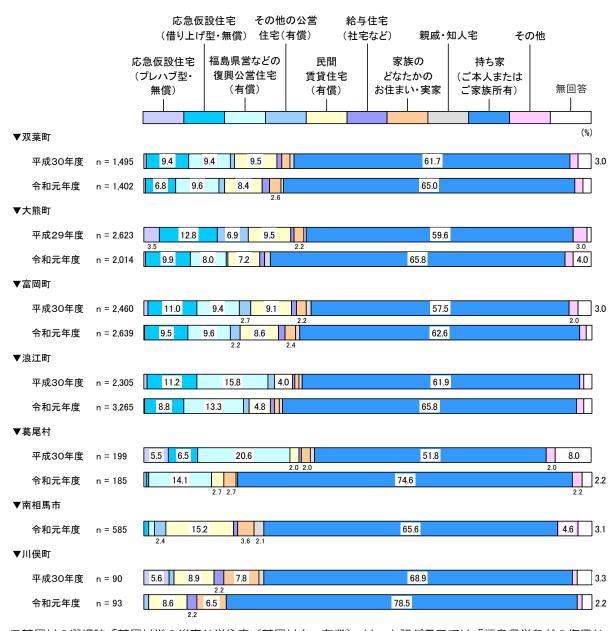
#### <川俣町>



### 現在の住居形態

- ○元の自治体に戻っている方以外の現在の住居形態について、「応急仮設住宅 (プレハブ型・無償)」または「応急仮設住宅(借り上げ型・無償)」と回答し た方の割合は各町村で減少している。
- 〇また、「持ち家(ご本人またはご家族所有)」と回答した方の割合は各町村で増加しており、概ね6~8割の方が持ち家を取得している。

※それぞれ、元の自治体に戻っている方以外の住居形態について整理している。



- ■葛尾村の選択肢「葛尾村営の災害公営住宅(葛尾村内・有償)」は、上記グラフでは「福島県営などの復興公営住宅(有償)」として表示
- ■南相馬市は「現在の住居形態」については、平成 28 年度では聴取していない
- ■川俣町の選択肢「公営住宅」は、上記グラフでは「その他の公営住宅(有償)」として表示

# 帰還を判断するために必要な条件

〇帰還意向において「まだ判断がつかない」と回答した方が、帰還を判断するために必要な条件として、「医療・介護等の再開」が上位である市町村が多く、 その他「放射線量の状況」「商業施設の再開」「周囲の住民の帰還状況」などが 上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町	医療・介護福祉施設の		商業施設の再開や新設	除染対策	どの程度の住民が
令和元年度	再開や新設	住宅確保の支援		(被ばく低減対策)	戻るかの状況
n=343	40.5%	35.6%	27.7%		12.2%
大熊町	道路、鉄道、病院などの 社会基盤(インフラ)の		住宅確保への支援に 関する情報	どの程度の住民が 戻るかの状況	帰還困難区域の避難指示 解除となる時期の目安に
令和元年度	復旧時期の目途	际栄成米の仏流	対 9 句   同   和	<b>戻るかの仏</b> 流	関する情報
n=556	63.3%	46.0%	42.4%	41.4%	38.8%
富岡町	医療機関(診療科)の拡充	商業施設の充実	どの程度の住民が	介護・福祉施設の充実	放射線量の低下の
			戻るかの状況		見通し、除染成果の状況
令和元年度					
n=417	61.4%	46.3%	38.4%	36.7%	34.3%
浪江町	医療・介護の復旧時期の		商業やサービス業などの		放射線量の低下の目途、
令和元年度	目途	戻るかの状況	施設の復旧時期の目途		除染成果の状況
	55.00/	20.007	00.40/	廃炉の状況)	00.50/
n=925	55.8%	39.0%	36.4%	30.7%	28.5%
葛尾村	医療機関(診療科)の拡充	有害鳥獣対策の強化	介護・福祉施設の充実	どの程度の住民が 戻るかの状況	働く場の確保の見通し
令和元年度				<b>戻るかの仏流</b>	
n=53	47.2%	32.1%	28.3%	20.8%	20.8%
南相馬市	医療機関(診療科)の状況	介護・福祉施設の状況	商業施設の状況	原子力発電所の安全性に	鉄道等公共交通機関の
				関する情報(事故収束や	状況、等
令和元年度				廃炉の状況)	
n=214	63.6%	43.5%	40.2%	36.0%	29.0%
川俣町	医療機関の充実		公共交通機関の充実	介護・福祉施設の充実	どの程度の住民が
令和元年度		見通し、除染成果の状況			戻るかの状況
n=23	43.5%	43.5%	39.1%	34.8%	26.1%

- ■大熊町、南相馬市については、震災発生当時に住んでいた方の帰還を判断するために必要な条件について整理している
- ■南相馬市は、「鉄道等公共交通機関の状況」「放射線量の低下の見通し、除染成果の状況」「どの程度の住民が戻るかの状況」の3項目が同率で5位となっている

#### < (参考)前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町	医療・介護福祉施設の		商業施設の再開や新設	更なる放射線量の低減	どの程度の住民が戻る
平成30年度	再開や新設	住宅確保への支援			かの状況
n=383	56.7%	49.1%	29.0%		
大熊町		放射線量の低下の目途、除染		どの程度の住民が戻るかの	避難指示解除となる時期の目
平成29年度	社会基盤(インフラ)の復旧時 期	<b>队未の认</b> 流	情報	状況	安 に関する情報
n=705	71.8%	52.5%	50.4%	50.1%	
富岡町	医療機関(診療科)の拡充		どの程度の住民が戻る かの状況	介護・福祉施設の充実	働く場の確保の見通し
平成30年度			10 05 B130		
n=503	50.7%	39.4%	39.2%	33.6%	30.0%
浪江町	医療・介護の復旧時期の目途		どの程度の住民が戻る	原子力発電所の安全性に	放射線量の低下の目途、
平成30年度		施設の復旧時期の目途	かの状況	関する情報(事故収束や 廃炉の状況)	除染成果の状況
n=920	52.9%	50.7%	37.8%	31.3%	28.0%
葛尾村	避難先の方が、 生活利便性が高いから		葛尾村外への移動交通が 不便だから	原子力発電所の安全性に 不安があるから	営農などができそうに ないから
平成30年度	TATTORIES INTO 10 5		T Wien 5	1 2 % 65 6 % 5	0.0 N 3
n=76	52.6%				30.3%
南相馬市	医療環境に		生活に必要な	介護・福祉サービスに	放射線量の低下、除染の
平成28年度	不安があるから		商業施設などが元に	不安があるから	効果に不安があるから
十成20年度 n=334	61.1%		戻りそうにないから 51.8%	40.1%	39.8%
	医療機関の充実		鉄道など公共交通機関の	どの程度の住民が戻る	原子力発電所の安全性に
川俣町	広水  成  大		充実	かの状況	関する情報(事故収束や
平成30年度			70,7		廃炉の状況)
n=22	50.0%	50.0%	40.9%	40.9%	36.4%

■葛尾村については、「帰還の判断がつかない理由」を使用している

# 帰還しないと決めている理由

〇帰還意向において「戻らない」と回答した方が、帰還しないと決めている理由 として、「すでに生活基盤ができているから」「避難先の方が、生活利便性が高 いから」「医療環境に不安があるから」などが上位にあげられている。

※複数回答□	Т

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町	避難先で自宅を購入	医療環境に不安が	水道水などの生活用水の	避難先の方が、	生活に必要な商業施設
令和元年度	または建築し、将来も継続	あるから	安全性に不安があるから		などが元に戻りそうに
	的に居住する予定だから				ないから
n=893	55.9%	49.3%	39.3%	37.7%	36.7%
大熊町	すでに生活基盤が	避難先の方が	家が汚損・劣化し、住める	原子力発電所の安全性に	医療環境に不安が
令和元年度	できているから	生活利便性が高いから	状況ではないから	不安があるから	あるから
n=1,252	41.5%	20.0%	18.7%	16.4%	15.1%
富岡町	すでに生活基盤が できているから	避難先の方が、 生活利便性が高いから	医療環境に不安があるから	原子力発電所の安全性に 不安があるから	生活に必要な商業施設などが不足しているから
令和元年度	C5 Cいるから	生活利便性が高いから		小女がめるから	などが不足しているから
n=1.436	61.1%	39.7%	33.1%	28.1%	25.6%
	すでに生活基盤が	医療環境に不安があるから	避難先の方が、	原子力発電所の安全性に	生活に必要な商業施設
浪江町	できているから	区が株別に1.メルののから	生活利便性が高いから		などが不足しているから
令和元年度	CE CU "011"5		工石が民任が同びがら	117900000000	14 C 10 11 12 C 0 11 10 10 10 10
n=1.944	49.2%	44.0%	41.4%	31.9%	30.6%
葛尾村	医療環境に不安があるから	すでに生活基盤が	避難先の方が、	高齢者・要介護者のいる	葛尾村外への移動交通が
		できているから	生活利便性が高いから	世帯なので生活が	不便だから
令和元年度				不安だから	
n=93	50.5%	46.2%	40.9%	34.4%	29.0%
南相馬市	すでに恒久的住宅を	すでに生活基盤が	避難先の方が、	医療環境に不安があるから	原子力発電所の安全性
	取得したから	できているから	生活便利性が高いから		(事故収束や廃炉の状況)
令和元年度					に不安があるから
n=318	48.1%	44.7%	40.6%	38.4%	36.8%
川俣町	医療環境に不安があるから		放射線量が低下せず		原子力発電所の安全性に
令和元年度		生活利便性が高いから	不安だから	できているから	不安があるから、等
n=22	40.9%	36.4%	27.3%	27.3%	22.7%

- ■大熊町、南相馬市については、震災発生当時に住んでいた方の帰還しないと決めている理由について整理している
- ■川俣町は、「原子力発電所の安全性に不安があるから」「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」 「山木屋地区外への移動交通が不便だから」「介護・福祉サービスに不安があるから」「高齢者・要介護 者のいる世帯なので生活が不安だから」の5項目が同率で5位となっている

#### < (参考)前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町	避難先で自宅を購入	医療環境に不安が	家が汚損・劣化し、住める	生活に必要な商業施設	水道水などの生活用水の
平成30年度 n=920	または建築し、将来も継続 的に居住する予定だから 54.5%	あるから 49.5%	状況ではないから 46.4%	などが元に戻りそうに ないから 41.6%	安全性に不安があるから 40.4%
大熊町	すでに生活基盤が	家が汚損・劣化し、	原子力発電所の	放射線量が	中間貯蔵施設の
人版叫			安全性に不安があるから		計画があるから
平成29年度		255 9 705 610 00 75 75	X = E = 1 X 2 2 2 2 3	BT C / T X/C/C	11 11 00 00 0
n=1,555	36.1%	26.7%	24.1%	20.6%	20.1%
富岡町	すでに生活基盤が	避難先の方が、	原子力発電所の安全性に	医療環境に不安が	水道水などの生活用水の
	できているから	生活利便性が高いから	不安があるから	あるから	安全性に不安があるから
平成30年度					
n=1,439	60.4%	40.4%	36.2%	32.4%	27.4%
浪江町	医療環境に不安が	すでに生活基盤が	生活に必要な商業施設	避難先の方が、	原子力発電所の安全性に
平成30年度	あるから	できているから	などが元に戻りそうに	生活利便性が高いから	不安があるから
n=1.519	50.1%	47.8%	ないから 42.3%	39.2%	37.9%
-	避難先の方が、	医療環境に不安が	3 葛尾村外への移動交通が	高齢者・要介護者のいる	すでに生活基盤が
葛尾村	生活利便性が高いから	あるから	る尾がから 不便だから	世帯なので生活が	できているから
平成30年度	土冶利使住が高いから	פיגופש	不使にから	不安だから	Cactions
n=87	47.1%	43.7%	39.1%		33.3%
南相馬市	原子力発電所の安全性	医療環境に不安があるから	すでに恒久的住宅を	生活に必要な商業施設	避難先の方が
門相局川	(事故収束や廃炉の状況)		取得したから	などが元に戻りそうに	生活の便利がいいから
平成28年度	に不安があるから		,	ないから	
n=378	54.8%	53.2%	52.9%	47.4%	46.0%
川俣町	避難先の方が、	すでに生活基盤が	医療環境に不安が	介護・福祉サービスに	放射線量が低下せず
7.154.7	生活利便性が高いから	できているから	あるから	不安があるから	不安だから
平成30年度					
n=35	54.3%	54.3%	40.0%	37.1%	31.4%